

研究テーマ	感性に働きかけ、表現の意欲を高め、持続させる指導の工夫 —— 第3学年「伝統の美に学ぶ ～扇面のデザイン～ 卒業式の壁面を飾ろう」の実践を通して ——
-------	---

守谷市立守谷中学校 教諭 宮城 真恵美

I 研究テーマについて

「中学校学習指導要領解説美術編 第3章 第2節第2学年及び第3学年の目標(2)」に「対象を深く見つけ感じ取る力や想像力を一層高め、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し創造的に表現する能力を伸ばす。」とある。そして、「対象を深く見つけ感じ取ることは感性を豊かに働かせてその内面的価値をとらえること」とある。このことは、まず対象を見つめて感じ取ることが、表現することにつながっていくことと考えられる。そこで、生徒の感性に働きかける題材の設定が必要であるととらえた。さらに、「豊かに発想し構想する能力とは、独創的・総合的な見方や考え方を基に、対象から多様な印象やイメージをとらえたり美的、創造的構成を考えたりしながら新たなよさや美しさなどを発想し構想する能力のこと」とある。また、この時期の生徒の表現活動において自分らしさについてこだわったり自己の課題について追求的な態度をとるといった発達段階を踏まえて、自分らしさを自信をもって表現できるように指導することが必要であるとされている。そこで、対象から感じ取ったことからより独創的な見方や多様な印象やイメージをとらえ、新たなよさや美しさなどを構想しながら自分らしさを追求できるような指導を試みたいと考えた。また、生徒が作品を卒業式で披露し、裏に親へのメッセージを書いて伝えるという目標を決めた。「自分の今までとこれから」を作品にこめて発信することをねらいとし、このテーマを設定した。

授業実践では扇面のデザインの制作を通して、日本の美術からその美しさを感じ取り、創造的な表現方法を工夫し、表現意欲を持続することができるような指導の在り方について考えた。

本校の生徒は、全体として題材に対して真剣に取り組むことができているが、中には何を表現したいかを決められず、無駄に時間を過ごしてしまう生徒も見られる。そのような生徒は制作を早く進められる生徒と進度差がつき、結局は思うように表現できずに制作が終わってしまうことになる。また、技能面で思い通りにならないと表現の意欲がそがれ、制作の最後まで意欲が続かないため、ただ提出するだけになってしまうこともある。以上のような実態を考慮し、どの生徒にもとらえやすいように題材の内容や目標の設定をしたり、技能面でも幅広く対応できるように道具を用意したり、技法を指導したりといった工夫が必要であると考え、本研究に取り組んだ。

II 研究の実際

1 題材名 「伝統の美に学ぶ ～扇面のデザイン～ 卒業式の壁面を飾ろう」

2 題材の目標

- 日本の美術のよさや美しさに気付き、扇面をデザインすることに興味・関心をもつ。
(美術への関心・意欲・態度)
- 日本の美術の特徴を取り入れ、自分らしい表現を構想する。(発想や構想の能力)
- 意図をよりよく表現できる技法を工夫することができる。(創造的な技能)
- 作者の表現意図や思いを考えながら、作品を鑑賞することができる。(鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 生徒の実態

制作活動に関する実態調査(質問紙調査 平成26年12月 3年4組 32人)の結果は以下の通りである。(単位 人 複数回答あり)

美術の授業で興味があることは何ですか? 絵を描く 12 ものを作る 8 鑑賞 6 技法 2
道具 2 色 2 風景画 1 自画像 1 ない 2

美術の授業で困ったことがありますか? ある 23 ない 9

どんなことで困ったのですか?

アイデアが思いつかない 10 アイデアがあってもどう表現して良いのかわからない 9
写して描くのは好きだが、考えて描くのは苦手 6 色塗り 2

日本の美術について興味がありますか?また、そのわけも書いてください

ある 15 (着物のデザインが好き、歴史の授業で学んだ、2年生の時の和菓子のデザインが楽しかったなど) どちらでもない 12 ない 5 (現代のデザインの方が興味があるなど)

扇面のデザインをしてみたいですか?また、そのわけも書いてください。

デザインしたいと思う 15 (初めてで興味がある、かっこいい、飾るとききれい、色をつけてみたいなど) どちらでもない 10 思わない 7 (難しそう、細かそう、アイデアに困る、センスがないなど)

上記の結果から、美術の授業では大半の生徒が興味をもてることのあるのだが、約6割の生徒が困ったことがあると答えている。その理由として、アイデアが思いつかないことが筆頭に挙げられる。日本の美術については、2学年で和菓子のデザインをした際に四季をテーマに季節感や色合いを工夫した経験があるので、興味があると答えた生徒はその影響が強いと思われる。また、扇面のデザインをしたいと答えている生徒は約半数いるが、歴史で学んだことや日本の伝統美を修学旅行で見たことも意欲につながっていると思われる。

(2) 題材観

日本人は変化に富んだ自然や四季を心豊かに楽しみ、優れた美術や造形を作り出してきた。扇は、奈良時代に中国から伝わったうちわをもとに、平安時代に日本で考え出された。涼をとる道具としてだけでなく、儀礼的な道具、茶道や香道の小道具、舞踊の小道具として使われている。そのよさや美しさを学び、豊かな造形の伝統を体験することは意義あることと考える。しかし、ただ単にそれを模倣するだけでは、触れただけで学んだことにはならない。ここでは、扇子が日本独自の文化であることを理解させ、和の文様や色合いの美しさを感じ取らせたい。さらに、卒業制作ということで、自分なりの表現を加えてオリジナリティのある扇面のデザインを構想し、制作させたいと考える。

(3) 指導観

アンケート調査からわかった実態を踏まえて、まず、導入の段階で、舞踊等で使われている実物を鑑賞させ扇子における伝統の美を感じ取らせたい。また、生徒は、美術の時間にアイデアが思いつかないことで躓き、表現の意欲を削がれることがあるので、次のようなポイントを考慮して授業に臨みたい。

- ・制作カードによる学習計画の見通しと1単位時間の目標の明確化と振り返り
- ・構想の段階での資料の提示の工夫(心に残る一文字を入れる, 和の文様のパーツを配る)
- ・着色時の材料・道具の工夫(発色のよい絵の具を色数を多くする。筆・紙パレットを用途に合わせて多量に準備する。絵の具コーナーの設定。金銀色の充実)
- ・制作後の展示の工夫(扇子の裏に親へのメッセージを書いて卒業式に飾り, 親や教師・在校生に鑑賞してもらった後, 親に取っていただく)

4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
日本の美術のよさや美しさに気付き, 扇面をデザインすることに興味・関心をもとうとする。	日本の美術の特徴を取り入れ, 自分らしい表現を構想することができる。	意図をよりよく表現できる技法を工夫することができる。	作者の表現意図や思いを考えながら, 作品を鑑賞することができる。

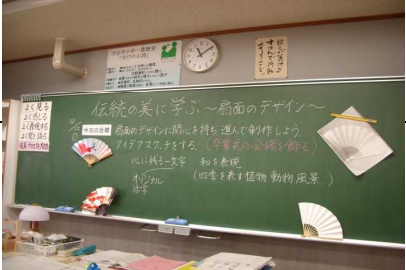
5 指導と評価の計画(10時間扱い)

時間	学習内容・活動	関	発	技	鑑	評価規準【評価方法】
1	扇面の役割について知り, アイデアスケッチをする。	◎			○	・日本の美術の美しさを感じ取り, 扇面のデザインに関心をもとうとしている。 【制作 カード・観察】
1	心に残る一文字を選び, 字形や配置を決める。		◎	○		・自分らしさやテーマを考えながら, 文字を選び, 配置することができる。 【作品・制作 カード】
2	扇面に下絵を描く。		◎	◎		・日本の文様を参考にして文字と組み合わせたりしながら表したいことがバランスよく表現できる。 【作品・観察】
5	扇面に着色をする。		○	◎		・着色の基礎技法を確認し, 丁寧に着色できる。 【作品・観察】
1	鑑賞会をする。	○			◎	・作者の表現意図や思いを感じながら, お互いの作品のよいところを見つけることができる。 【制作カード・観察】

5 指導の実際

時	教師の提案	生徒の反応
1	<ul style="list-style-type: none"> ・扇面制作の全体的な計画を提示する。(制作カード) ・扇面の参考資料を提示し, 和の文様のプリントを配布することで伝統文化の美しさを感じ取らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業制作であることを意識して作ろう。 ・卒業式に飾るので, 自分らしさを出したい。 ・扇子が日本独特の文化だとわかった。 ・2年生の和菓子のデザインの時に季節感を出したのを思い出した。 ・何にするか迷っていたけど, 和の文様を組み合わせたら扇子らしくなる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の心に残る一文字を扇面 	<ul style="list-style-type: none"> ・文字は, 篆刻の授業でも作ったので, 自分の名前からと

2 に入れよう。卒業を迎えてのメッセージ性のあるものや文字から背景を発想してもよいし、背景の中に文字を一体化させてもよい。(既製の書体, 創作書体)



3
4 (導入時の板書)

- ・扇面にデザインしたものを転写する。
- ・下描きした紙の裏に鉛筆で色を塗り、表からなぞって扇面に写す。
- ・直接描いてもよい。

- ろう。
- ・コンピューターで好きな書体を選べるから、イメージが広がる。
 - ・自分が毛筆で書いた文字を入れよう。
 - ・文字をデザイン化して背景の中に溶け込ませるようにした (文字を中央に配置)い。



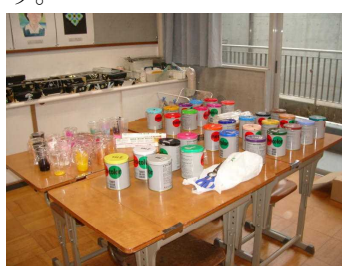
- 5
6
7
8
9
- ・ネオカラー32色, 筆3種類 (平・彩色・面相) カラーペン金・銀シートを用意する。(絵の具コーナーから使用)
 - ・明るい色から暗い色へと進める。
 - ・扇面はでこぼこしているので広げながら彩色する。
 - ・グラデーションは1時間で一気に仕上げる。
 - ・細いところは無理をしないでペンを使う。
 - ・紙パレットを使い、色の状態をみる。
 - ・出した色はなるべくその日のうちに使い切る。

- ・丁寧に転写しよう。
- ・失敗しても鉛筆の線は消しゴムで消せる。
- ・広げて写さないとやりにくい。
- ・扇子の曲線に合うような柄に修正しよう。
- ・扇子の蛇腹を利用してそこにはまるような絵に一部変更しよう。



(美術室での制作)

- ・色数が多いから、好きな色を選べる。
- ・金銀をたっぷり使って豪華な感じにしたい。
- ・イメージする色に近づけるように混色したいが、缶の中から出すとたくさん出過ぎてしまうから加減が難しい。
- ・絵の具コーナーから持ってきて作業ができるので便利。
- ・平筆では広くむらなく塗れ、面相筆は、細かいところをポイント的に塗れる。
- ・カラーペンも使ってよいので、後で黒マジックで修正しよう。




(絵の具コーナー)



(下絵を見ながら慎重に彩色)



(金色を効果的に使う)

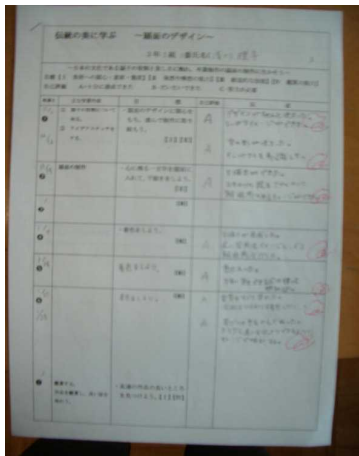
	 <p>(北斎を参考にして) (黒地に文字をデザインして)</p>
<p>10</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の作品の振り返りをし、制作カードに記入しよう。 友達2人を選び、その良さをじっくり味わい、鑑賞カードに書こう。(A基準を示す。) 自分が学芸員になったつもりで、作品のアピールポイントをつかみ、解説しよう。 	<ul style="list-style-type: none"> イメージ通りの作品ができてうれしい。 卒業の記念に自分らしい表現をしようと頑張りました。 文字と絵の雰囲気がとても合っていた。 文字を目立たせたり、背景に溶け込ませたりといろいろな表現方法があるの気づいた。 作者の解説を読むと、卒業制作への気持ちがよく伝わってくる。 金銀の粉を最後に付けているのが効果的だ。 前回の題材で学んだ技法(モダンテクニック、にじみ、ぼかし等)を使っているのがいい。

【生徒作品】



着色の途中の作品
(和の文様を組み合わせた作品が多い。明るい色から暗い色へと着色を進めた。)

【制作カード】



【和の文様の資料集】



III 研究の成果と課題

(1) 成果

- 制作カードによる学習計画の見通しをもたせることで目標をもって活動することができていた。また、振り返りをさせることで、よかったことと改善点が分かり、次回の活動

内容も自ずと分かりやすくなっていた。

- ・参考作品の提示により、図案のイメージをもつことができた。
- ・「心に残る一文字」を選択し配置することで、デザインの考案に苦手意識のある生徒には文字のもつイメージから構想することができたり、文字と色だけで構成する方法もあるので生徒の技能に合わせて制作することができた。
- ・提示された和の文様のパーツを組み合わせることで、扇子のデザインが考案しやすかった。
- ・裏に親へのメッセージを書いて卒業式の会場に飾った。それぞれに心のこもったメッセージが綴られており、どの生徒の親も大切に持ち帰っている姿が見られた。

(2) 課題

- ・導入の段階で、扇子についてもっと知識を深めるようにした方がよいと考える。(修学旅行との連携も必要)
- ・親へのメッセージの内容とデザインをリンクさせた方がよかったと思われる。
- ・絵の具の色数を多数揃えたが、使う色はだいたい決まっていた。
- ・扇子の素材が粗悪で着色すると、竹の骨から紙がはがれてしまう物があった。



【卒業式当日の壁面】

紅白幕の一部を張らず、側面と背面に展示した。卒業生全員の作品が卒業式会場を華やかにしていた。木の壁面の茶色に扇子の明るい色が映えてきれいだと好評を得た。

(参考文献・資料)

中学校学指導要領解説 美術編 文部科学省
新版① 日本の文様 青幻舎
京千代紙と和の文様セレクション インプレスジャパン

